

【第1号議案資料】

社会福祉法人つくしの会 障害者支援（自閉症者療育）施設 はぎの郷

令和元年度事業報告

1. 利用者の推移

(1)入・退所者推移（定員40名）

	H24.4.1	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	R1.4.1	R2.4.1
男	27	27	28	28	29	29	29	29	28
女	15	15	15	15	15	15	15	15	15
対前年度増減	0	0	+1	0	+1	0	0	0	-1
合計	42	42	43	43	44	44	44	44	43

(2)性別・年齢別表(H31.3.31現在)

	25	32	33	36	37	42	43	44	45	46	47	48	49	50	53	56	合計	平均
男	1	1	0	1	1	0	1	3	3	1	4	5	3	2	1	1	28	45.3
女	0	0	1	0	0	1	0	1	2	2	4	0	4	0	0	0	15	46.6
計	1	1	1	1	1	1	1	4	5	3	8	5	7	2	1	1	43	45.4

(3)市町村別利用状況(R2.3.31現在)

	金沢市	野々市市	内灘町	津幡町	七尾市	白山市	小松市	かほく市	合計
男	23	1	1	0	1	0	0	2	29
女	5	1	1	2	3	2	1	0	15
計	28	2	2	2	4	2	1	2	44

(4)障害支援区分別表

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	3	14	11
女	0	0	0	3	6	6
計	0	0	0	6	20	17

2. 職員構成

R 2.5.1 現在

	定数	現員数	定数比		定数	現員数	定数比
施設長	1	1	0	事務長	1	1	0
サービス管理	1	1	0	事務員	1	1	0
支援課長	20	1		管理栄養士	1	1	0
生活支援員		23.2	+3.2				
看護師	1	1	0				
				合計	26	29.2	+3.2

3. 実施した主な行事

月	行 事	主 催	場 所
4月	小グループ活動	はぎの郷	東茶屋街散策
5月	小グループ活動	はぎの郷	焼き物絵付け体験 (福井県陶芸館)
7月	各棟行事(カレーパーティー)	はぎの郷	各生活棟
7月	シェイクアウト石川に参加	石川県	津幡運動公園体育館
8月	萩野台地区盆踊り	萩野台公民館&はぎの郷・ノーム	萩野台コミュニティープラザ
10月	はぎの郷まつり 2019	つくしの会保護者会&はぎの郷&ノーム	はぎの郷トロール、ノーム、駐車場
12月	発達障害理解のための公開講座 第一部講演：日詰正文氏 第二部上映会「ぼくはうみがみたくなりました」	つくしの会 後援：PFU労働組合	津幡町文化会館 シグナス
12月	忘年会		忘年会ランチ
2月	各棟行事(鍋パーティー)	はぎの郷	各生活棟

4. 職員研修及び関連研修

日 付	分類	内 容	備考
4/25(木)	大会	知障協総会	
6/11(火)～12(水)	研修	生涯研修課程：初任者研修	
6/13(木)～14(金)	会議	知障協北陸施設長会議	
6/22(金)	研修	「高齢期の利用者の暮らしと支援を考える」研修会	新潟
7/21(日)	会議	全日本自閉症支援者協会	東京
7/4(木)・5(金)	大会	北陸地区知的障害関係施設職員研究	
7/10(水)、11(木)	研修	強度行動障害支援者養成研修：基礎	
8/11(日)	研修	アート研修会	
9/5(木)～9/6(金) 9/13(金)	研修	強度行動障害支援者養成研修：実践 (3日間)	
11/7(木)～8(金)	大会	全日本自閉症支援者協会研究大会	埼玉
11/11(月)～12(火)	研修	虐待防止、権利擁護研修	

5. 受諾研修・ボランティア・見学等

(ア) 受諾研修及び実習

分類	期間	講師・実習校・所属	人数
内部研修	6/17 キャリアパス勉強会	エイデル研修所（京都支店）講師	1名
施設実習	7/30～8/9（10日間） 8/20～8/30（10日間）	金城大学短期大学部幼児教育学科 同上	2名 2名
施設実習	7月3回 11月4回	金城大学短期大学部	2名
内部研修	9/3 はぎの郷・ノーム職員研修	横浜市発達障害者支援センター 発達障害地域支援マネージャー 神田 宏 氏	1名
施設実習	9/3～9/13（10日間）	金城大学社会福祉学科こども専攻	2名
施設実習	10/15～10/25（10日間） 11/5～11/15（10日間）	石川県立保育専門学園 同上	2名 1名

(イ) ボランティア

内容	備考
織物作業指導	毎月1回
マッサージボランティア	毎月1回程度
PCクラブ・インターネットカフェ	主に第1・3水曜日

(エ) 見学

随時、個人的な見学希望・相談に対しては、積極的に受け付けてきた。

6. 支援について

1) 利用者お一人おひとりに応じた支援のあり方を考えながら職員全体で取り組んできた。

令和元年度の支援内容は利用者ご本人の興味や関心からニーズを引き出し、余暇支援に重きを置いた個別支援計画を立てた。それらは6ヶ月に一度、アセスメントを元にサビ管・生活支援員・看護師・管理栄養士等が話し合いを持ち、再確認、見直し等を行った。

日常的には利用者が理解できるコミュニケーションの在り方を模索しながら、利用者お一人おひとりがそれぞれ身の回りのことや日中活動をできるだけご自分でできるようにサポートを継続した。また、日中活動後や土日には余暇活動を提供したり、必要に応じて外出（買い物や外食）サポートも行った。

本館男性棟（男性利用者19名）、本館女性棟（女性利用者15名）と別館（男性利用者9名）がそれぞれ独自に生活を組み立てている。

それぞれ集団生活の中にあっても、利用者一人ひとりの心身の特性に合わせて環境の調整を続けている。利用者同士の関係性も考慮して、活動場面の空間を分けたり、時間をずらすなどして、より活動に参加しやすいようにした。

支援の形は徐々に具体的になってきているが、限りある空間や職員の配置等に対しまだまだ検討の余地がある。

2) 職員の支援体制

「はぎの郷」は栄養、保健と密接に連携を取りながら日々の施設入所支援と生活介護（日中活動と生活支援）の2種類のサービスを提供している。

職員の勤務体制は、夜勤3人体制と早出2人、遅出1人、遅番2人と複雑な勤務となっており、職員間の情報共有や連携が重要となっている。

利用者の健康管理は日々の支援の中においても、ますます重要性が高くなってきており、サビ管・生活支援員・看護師・管理栄養士等が連携を取り、24時間トータルで利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。医療面からは日頃より口腔内の健康（歯周病や歯が脆くなり欠けるなど）や感染症には速やかに対策を講じている。受診する科は前述の歯科以外には精神科、内科、皮膚科、整形外科、眼科、耳鼻科、アレルギー科、婦人科、泌尿器科など多科に渡っている。

しかし、不調や疼痛を訴えることが出来ない利用者が殆どなので、日常的に身体状況、睡眠状況、食事の摂り方、排泄、言動面等から異常を早期発見し、速やかに医療機関につないでいくことが、この先ますます重要になってくると考えている。

7. 活動報告

1) 栄養

- ①委託業者との連携を密にとる。
- ②6ヵ月に一度のモニタリング会議に参加し、栄養ケアマネジメントを行った。
- ③利用者の健康状態・ADL状態・障害特性により特別食が増えてきた。
 - ・栄養量
 - ・調理法
 - ・食事の形態（きざみ食、別盛り食）
 - ・介助皿の使用

2) 保健

①健康診断、健康管理と疾病予防

- ◆ 健康診断（年2回9月、3月（3月分はコロナウィルス感染予防のため中止））
 - ・尿検査
 - ・血液検査
 - ・結核検査（間接撮影）
 - ・身体測定・体重・身長・腹囲
 - ・血圧、脈拍測定
- ◆ 歯科検診（年1回）
- ◆ ほけんの日
 - ・体重・腹囲・血圧、脈拍、体温などを測定、記録する。
- ◆ インフルエンザワクチン接種（11月26日）

②【医療連携病院】

医療法人社団浅ノ川 桜ヶ丘病院

【入院時の個別付添い対応】

利用者の入院加療中に、ご家族の付き添いが困難な場合、ご家族から要請があれば可能な限り、付き添いができる様に配慮しているが、これも職員の勤務上難しくなっている。

（個別付添費を別途いただく）

今後は外部ヘルパーの要請も早々に検討していく。

3) 余暇支援部門

基本方針

利用者になじみのある余暇活動を継続し、季節を楽しむ。

重点目標：今年度は四季を大切にした余暇活動としていきたい。

季節を感じる活動を目的とした内容で、計画的に実施していく。

- ① ドライブについて
 - ・月に1回（日曜日の午後）に企画し行った。
 - ・事故やトラブルなく、安全にドライブをできた。
- ② お菓子作り
 - ・見栄えや味等、季節感を出し時期にあった旬な果物を使い行った。
 - ・事前にメニュー等を掲示し、できるだけ多くの利用者が参加できるようにした。
- ③ 季節が感じられる小行事と土日を中心とした余暇の充実
 - ・入浴後の喫茶や夜のおやつを提供した。
 - ・月に一度の「誕生日おめでとう」のケーキを喫茶時に提供した。
 - ・各生活棟での季節に応じた装飾を行った。
- ④ 基本的な生活習慣
 - ・利用者が日々、見通しを持って生活できるように各生活棟での朝の会を行う。
その為の、朝の会用の掲示物の作成と日課の掲示できるようにした。
 - ・館内の整理整頓と備品の管理
 - ・身の回りの衛生・管理（理容室・美容室付き添い、衣類名前付けなど）行う。
- ⑤ さまざまな交流の機会をつくる
 - ・地域の行事・イベントへの参加
（津幡町美化デーの参加、ねころんで音楽会などの参加）

4) 日中活動支援部門 ■療育活動■

基本方針

心身共に健やかな体作りを目指し、四季を感じながら豊かな生活を送れるようにする

①ウォーキング活動・リトミック活動

利用者個々のペースや身体能力、必要な配慮も多様化していく中で、『全体での療育活動』だけでは目的意識を持って活動に取り組むのが難しくなっており、個別アセスメント、モニタリングを基に、小グループ活動から段階的に各利用者の「運動量」や「ペース」に焦点を合わせた形に新たなグループ化を図り11月より活動の提供を実施している。

◆ウォーキング活動

目的・方針

施設周辺や森林公園・宇ノ気運動公園などの屋外において、屋外の開放感・季節を楽しみながら、歩いた達成感を感じられるウォーキング活動に取り組む。

- ・グループでの療育活動の実施に伴い、身体能力的に近い利用者同士で歩くことで、同ペースで歩き続ける、という事ができるようになっている。

◆リトミック活動

目的・方針

- ・音楽に合わせた動作（リトミック）から、リズムを感じ利用者一人ひとりに応じた身体機能の維持を図る。

今年度、リトミックの動きの定着化を図るため、リトミックのCDは変更せず4種類。

- ・グループ化に伴い、「健脚6キロ組」に焦点をあてた、75分ロングリトミックを作成。
- ・ロングリトミックは歩く、走る、とペースチェンジを中心に、早い手拍子やサイドステップなど、全体でのリトミックでは取り組めない内容を取り入れた。

③体操・ダンス・ゲーム活動

目的・方針

- ・音楽やリズムに合わせて体を動かす楽しみを体験しながら、筋力や柔軟性などの身体的な機能に働きかけていく。

【ダンス（外部講師）】

6月より外部講師に依頼し取り組みを開始。活動日は第1、3金曜日の午前中。

場所はトル2階体育館を使用。

- ・肩甲骨など、普段使わない体の部位をほぐす体操など、取り組みも徐々に増えてきている。
- ・体を動かす専門的な視点での体の動かし方、体操やダンスを体感することができている。
- ・楽しみにしている利用者も多い。

5) 日中活動支援部門 ■作業活動■

活動の目的と方針

- ・「自分の仕事」という自覚と責任感を持って自主的に取り組める活動があること
- ・生活の場面に応じて適した清潔な衣類に着替えること
- ・活動の場には必ず職員が同席し、適切な関係が保たれていること
- ・活動を通して、その文化に触れたり、人との交流が生まれていること
- ・活動により、報酬や他からの感謝、自身の健康など恩恵を受けていること

①作業活動全体の取り組みと成果

作業班メンバーの編成を見直し、細分化したことで、利用者一人ひとりに目を配ることが出来るようになった。

②各作業班の取り組みと成果、課題

作業班	作業内容	取り組みと成果	課題
織物班	①織物 結び織 機織り	・利用者各々の作業スペースと個々に応じた道具や材料を提供し、個人のペースで取り組むことができた。 ・月に一度、講師に指導を受ける。同時にボランティアに來られた方々との交流の場となっている。	・在庫の管理。引き続き販路を検討する。 ・作業に入る支援員を固定化し、利用者1人1人の手順書を図案の裏にファイリングし、携わる支援員全員が確認出来るようにした。

	②染色 染材採り 染材ちぎり 染材液づくり	・草木染め染色カレンダーを作成し、作業日程を調整した。 ・インド藍の染色を数年ぶりにできた。	・絞り染めの完成度をあげる。 ・染材の色が入りやすいように下処理を行っている。
	③園芸	・花壇作り、土作り、苗植え除草を行う。	
軽作業班	①ボビン 残糸巻取り	・作業空間を利用者にわかるように机と椅子の配置を検討した。 ・座席に顔写真を貼り、各自の場所を分かりやすくした。 ・自主的に判断し作業を進められる「グループA」と、支援が必要な「グループB」に大まかに分かれる事で、作業工程で支援が充足できた。 利用者の様子を見て作業場所や支援内容は変更していく。	・利用者への働きかけを統一できるよう、それぞれの課題を支援者が共通理解する。
	②軽作業 ネジまわし 色分け課題等	・ボビンや、アルミ缶が不足しそうな時に随時、取り入れた。 ・ボビンの糸の量によって作業量が左右されないため、利用者によっては安定できる作業ともなっている。	・ボビンが無い時には「課題」としてネジやその他の軽作業も取り入れる。
	③アルミ缶 アルミ缶潰し	・作業時『軍手』を着用して、アルミ缶つぶし時の安全を配慮した。	・アルミ缶置き場の衛生を維持。
畑作業	①畑作業 畝づくり 苗の購入 苗植え 雑草とり 支柱立て 看板作り	・畑作業の作業内容・進捗の理解不足。年間計画を立てることができていない。 ・収穫野菜はフライデークッキングの材料として、計画的に消化している。	・菊芋の漬物加工を目指す。 ・作業日が減ったことで、天候に左右される畑仕事をどうするか。
	②装飾品作り 毛糸のポン玉 プラ板 まつぼっくり 採集 仕分け 種とり	・雨天時、農閑期の作業として取り入れた。 ・個人目標を作ることができていない。 『ひとり1ブランド』の拡大、新商品「カラフルまつぼっくり」制作した。	・利用者主導の作業活動にしたいが慣れないということもありつい職員の手が出てしまう。 ・継続性がない。ヒット商品を開発したい。
	環境整備	・「はぎの郷」周辺の草むしりなど随時取り入れる。	
地域交流活動		・津幡高校との交流 「花と緑のカーテンプロジェクト」	

令和1年度「ホームすぎな」事業報告

ホームすぎな管理者 袖野 完

1. 利用者の状況

(1) 利用者の性別、年齢、市町村別状況

- ・現利用者は6名で、全員男性である。
- ・平均年齢（48.5歳）
- ・金沢市(4)、かほく市(1)、白山市(1)

(2) 障害支援区分

- ・区分4(5)、区分5(1)

(3) 日中利用活動

- ・6名全員が、ジョブスタジオノームにて就労事業に従事している。

2. 職員配置

- ・管理者(1)・・・常勤(兼務)
- ・サービス管理責任者(1)・・・常勤(兼務)
- ・生活支援員(2)・・・非常勤(専任1)、常勤(兼務1)
- ・世話人(1)・・・常勤(専任)

3. ホーム利用頻度

月に、21日～31日（毎週帰省する人と隔週で帰省する人がいる）のホーム利用

4. 休日の様子

- ・ホームの自室で過ごす人もいれば、はぎの郷本館に来て仲間と過ごす人もいる。
- ・本館の人たちと一緒に活動したり、交流することを楽しみにしている。
- ・地域の行事に参加する人もいた。

5. 課題

現在職員3名体制で行っており、休みの日の余暇支援も昨年度に比べ充実させることができている。本人たちがもっと自由に出かける方法がないか模索している。

また、今回新型コロナウイルス感染対策として、3月16日以降の帰省を見合わせた結果、ずっとホームで過ごすこととなり、より休日の過ごし方を充実させる又は一人で楽しめる環境を作ることの必要性を感じている。

夜間19:30以降の時間帯は巡回見回り及び緊急対応のみであり、現段階では常時夜間に緊急対応の必要性はないが、昨年度は急病者が出たときは宿直対応をした。今後増えてくることは想定しなければならない。



一人ひとりが、その人らしい「はたらく」を実現するために

親子・家族のきずな

社会・自然との積極的な交流 を大切にしながら、

みんなで創りあげていく

はたらく人たちのためのスタジオです。

平成31～令和元年度 ジョブスタジオ ノーム 事業報告

1. ご利用者の推移

(1) ご利用契約者数の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男	19	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17
女	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	21	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19

(2) 性別・年齢別 人数表(R2.3.31 現在)

年齢	10台	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60～	平均年齢
男	0	5	1	0	1	1	6	2	1	0	38.8
女	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	24.5
計	0	6	2	0	1	1	6	2	1	0	35.9

(3) 市町村別ご利用状況(R2.3.31 現在)

市町村	金沢市	白山市	内灘町	津幡町	羽咋市	かほく市	小矢部市	計
男	9	1	2	0	1	3	1	17
女	0	0	0	1	0	1	0	2
計	9	1	2	1	1	4	1	19

(4) 利用者の障害支援区分(R2.3.31 現在)

	利用者数	障害支援区分判定						未判定
		1	2	3	4	5	6	
男	17			8	2	2	3	2
女	2				1	1		
計	19			8	3	3	3	2

※平成31年度平均利用者数は18.2名。

※設備的には不足は無いが、余裕がなく、新たな作業種目や取り組みを試したり、具合が悪くなった利用者が静養できるようなスペースがなく、空きスペースのやりくりに追われた。

2. 職員構成と異動

R2.3.31 現在

管理者 兼 サービス管理責任者	1	常勤
目標工賃達成指導員	1	常勤
職業指導員	2	常勤
生活支援員	4 (1.92)	常勤/非常勤

3. 実施した主な行事

(1) ノーム全般 (施設行事・交流)

日	内 容	会場
4/2	自閉症啓発デー ブルーライトウォーク	金沢城公園
5/1	祝令和 餅つき大会 (はぎの郷と合同)	トルロ
6/2	(保護者会) おやじの会	はぎの郷
6/9、10/6	津幡町美化大作戦 参加	萩野台公民館
6/20	カレー大会	ノーム前
6/21～7/31	梅干し作り 参加 (保護者会活動に協力)	トルロ
8/10	萩坂地区合同盆踊り大会	萩野台小学校
7/10	萩野台公民館 元氣塾 (放課後児童クラブ) 支援 流しそうめんセッティング	萩野台公民館
7/11	流しそうめん	ノーム駐車場
10/13	はぎの郷まつり	トルロ・ノーム前
12/27	今年のふり返り会	かほく市パッピール
1/10	新成人を祝う会 (新成人1名)	トルロ体育館
1/13	金沢手をつなぐ親の会成人式 出席	
1/24	冬だ! プールで思いっきりエンジョイ!	鳴和台プール
2/8	みそ作り体験教室 (ノーム保護者との合同行事)	トルロ
3/19	ボウリング大会中止: コロナ感染拡大のため	マンボウ

(2) 就労支援関連

5/3、5/4	山中漆器まつり出店 (洋菓子工房)	販売委託
5/22	シグナス障害者就労促進交流会 (津幡町地域自立支援協議会しごと部会による障害者就労啓発イベント)	津幡町シグナス ※商工会総会と併催
6/21	PFU・ProDeSにてクッキー販売会	各社売店
8/4	水天宮祭 (クッキー、小物グッズ、たこ焼き)	金沢水天宮
9/8	福祉のつどい金沢 2019 出店	松ヶ枝緑地
9/22	県ふれあいフェスティバル出店	産業展示館
8/19	P C再生研究会「PC再生の課題を整理しよう」	ノーム
10/8	津幡町ハートフルマルシェ (しごと部会)	アルプラザ
10/6	金沢手をつなぐ親の会チャリティーバザー出店	彦三のぞみ苑
10/12	津幡町福祉まつり	
10/20	子育て支援メッセに出店	県産展 4号館
10/24	PFU・ProDeSにてハロウィン販売会	各社売店
10/26	おんぼらーと祭に出店	金沢のGH
11/16	いしかわ特別支援学校文化祭に出店	校舎内
10/12, 11/2, 3 12/7, 8, 21	Vリーグ公式戦 PFUブルーキャッツ公式戦 クッキー販売ブース出店	石川スポーツセンター 金沢市総合体育館
11/30	金沢市パラスポーツ大会に出店	金沢市総合体育館
12/20	F J I T労働組合とのクリスマス販売会	F J I T売店
12/23	PFU・ProDeSにてクリスマス販売会	各社売店
<p>●津幡町役場、ユニバーサル(株)のご協力にて季節の企画 (母の日、父の日、ハロウィン、クリスマス、バレンタイン、ホワイトデー) においてチラシ回覧による注文販売を実施 (継続)</p> <p>●PFUブルーキャッツ事務局様のご厚意により、バレーボールプレミアリーグのPFUブルーキャッツのホームゲーム会場にて、クッキー販売ブースを出店。(継続)</p>		

(3) 生活・余暇支援関連

4/16	お花見ランチ	トルロ駐車場
4/26	八重桜ウォーク:雨天中止(翌日俱利伽羅ドライブ)	俱利伽羅不動寺
7/10	シェイクアウト石川に参加	うのけ運動公園
7/25	歯科検診	はぎの郷
8/14～16	フルーツポンチ作り	ノーム
10/18	健康診断	はぎの郷

11/26	インフルエンザ予防接種	はぎの郷
1/6、1/8	新年を祝う会	ノーム

※労働の報酬を実感できるよう、ご家族のご協力を得て毎月の給料日を一部現金支給にし、貯金箱に積み立てを行い、「チャレンジデー」等の行事(今年度 12/27 振り返り会実施：於キッチンカフェ・パッピー)の費用に充てている。

※9 月後半よりアデノウイルス結膜炎が流行。2 名の利用者、1 名の職員が発症し、警戒体制によりふれあいフェスティバルの参加を縮小したり、各ユニット分離の生活・活動を送らざるを得なくなった。

4. 職員研修及び関連研修

日付	分類	内容	備考
5/9、5/16、5/23	講習	Microsoft Teams オンライン講習	
6/6～6/7	研修	強度行動障害支援者養成研修指導者 国研修(実践)	
7/9～7/10	研修	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	講師として
7/14	研修	アート研修会 (著作権研修)	企画委員として
8/11	研修	アート研修会 (講演会&上映会) 『地蔵とリビドー』	企画委員として
9/7	研修	職員研修会 講師：神田宏氏	はぎ食堂
9/15	研修	パース公開講座 「わかりやすくして深い発達障害の話 ～関わるすべての人たちへのメッセージ」 講師：市川宏伸氏	運営手伝い
10/22	講習	食品衛生責任者講習	
9/5、9/6、9/13	研修	強度行動障害支援者養成研修(実践)	講師として
11/7～11/8	大会	全国自閉症支援者協会 埼玉大会	
1/27	研修	知障協 生産・就労部会研修会	

5. 受諾研修・実習・ボランティア・見学等

(ア) 受諾研修及び実習 今年度受け入れ無し
職場実習 (施設体験)

受入日(期間)	分類	所属	人数	延べ日数
1/14～1/17	職場実習	いしかわ特別支援学校	1	3

(イ) ボランティア

来郷者	内容	備考
NPO 法人 ケーネット知楽市	インターネットカフェ	主に第1・3水曜日
	パソコン再生	随時
PFU 労働組合	PC 再生	随時
石川工業高等専門学校	PC 再生	随時
津幡高校園芸部	作業関連の交流活動	随時

(ウ) 職員の委嘱業務・地域貢献等

津幡町共同募金会 審査委員	津幡町共同募金会
強度行動障害支援者養成研修 (基礎・実践) 企画委員	石川県
津幡町障害支援区分 審査委員	津幡町
障害のある方のアート活動支援研究会 企画委員	石川県
自閉症啓発デー 関連行事	石川県自閉症協会

(エ) 見学者ご来訪

月日	見学者	備考	人数
2/23	いしかわ特別支援学校	保護者・教員	3

6. 助成、寄贈

・7 月 大塚商会様より「たのくんからの贈り物」事務用品や衛生用品の寄贈

- ・7/31 公益財団法人JKAの平成31年度福祉車両助成により送迎車配備完了
- ・10/1 クラシックCDセット
(元金沢大学附属特別支援学校の先生2名より)



7. 今年度の取り組みの振り返りと工賃支給実績

(1) 支援全般について

【今年度目標への取り組み】31__R 元年度もはぎの郷の日中活動と連携を取り職員の支援体制の効率化を図りながら、以下の目標に向け、事業運営に取り組みました。

●自閉症・発達障害の方々への就労支援・日中活動支援スキルの向上

スタッフに向けてはキャリアパスを明確に整備するとともに、自閉症・発達障害の方への支援について系統的に学んでいく機会を設けるよう、様々な研修の機会を確保するため、法人全体で取り組んできました。今後も法人設立の主旨を全職員で継承し、自閉症専門施設としてのスキルを向上を図ってゆきたいと思えます。

また、県主催の「アートと支援を考える会」の企画運営への参画(H30年度より)を継続する他、ICT活用分野への研修にも積極的に参加して、そこで得たことも支援の幅を広げることに役立ててきました。就労継続支援B型事業所の評価は、支給する工賃の高低で測られ、報酬も定められるので向上を図っていくことはもちろんなのですが、併せて忘れてならない、ご利用者の満足度、ノームご利用の意欲、といった数値化しにくい評価基準にも我々はこだわって、個々のチャレンジの応援を出来るような準備を整えてゆきたいと感じています。

●販路や販売方法の拡充、受託作業の増量

クッキー製造販売においては、販路の拡大と社会参加の機会の拡大を狙い、新規のイベントにも参加してきました。イベントごとに、参集される客層が異なり、製品の内容や販売形態の工夫にも難しさを感じましたが、継続して参加することによりお客様との交流の機会が増えて行くこともメリットとして感じています。

受託作業においては、引き続き分量が増加し、カーテンフック作業、菓子ラッピング作業を中心にほぼ切れ目なく安定した作業活動を提供できたことは、ご利用者にとっても生活リズムの安定につながり、とてもありがたいことでした。

●作業環境の整理整頓・可視化・構造化

昨年度末の富士通ITプロダクツ労働組合様による5Sや見える化の取り組みの見学会を機に、作業環境の改善の取り組みと、自閉症支援に有効とされる構造化の取り組みを合わせた施設全体の環境調整を意識して行いました。今後もさらに全支援員で研鑽し、ご利用者が生活しやすい、作業しやすい環境整備に活かしたいと考えています。

【各世代のニーズに応じた療育プログラムの開発】

日常の運動プログラムにおいては、午前中の運動プログラムを希望される方々に対しウォーキングやリトミックプログラムを実施した他、1日の作業終了後のジョギングクラブを継続しました。

ウォーキングに際しては、利用者個々の意欲を大切に、新幹線ウォークや、ワンちゃんとの散歩ウォーク等、モチベーションを高める様々なパターンを増やして来ました。

また、自閉症協会の新年会を機会に、言語聴覚士協会との連携を得て、40歳以上の利用者への健康機能維持を目的とした日常的な運動プログラムへの足掛かりを持つことが出来ました。

【食事の提供について】

昼食の提供にあたっては、楽しい「食事のひととき」を過ごせることを大切にし、季節等に応じた行事食も積極的に行いました。

はぎの郷の管理栄養士とも連携して、4名の方にカロリー制限食(特別食)を提供しているほか、水分摂取制限の方、偏食傾向の強い方、咀嚼や嚥下に注意が必要な方、など特別な注意が必要な方々にも対応してきました。

【就労支援事業収入と工賃支給】

	31_R1 年度	30 年度	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度
① 就労支援事業収入	5,405,745	5,827,023	5,353,169	5,368,430	5,396,179	5,351,519	4,409,999
② 工賃支払総額	3,032,377	3,213,023	2,916,025	3,152,555	3,090,500	3,019,678	2,240,184
③ 平均工賃月額	12,959	13,192	12,356	14,801	13,921	15,727	14,178

(2) 各作業種目別実績

授産科目	具体的作業名	事業の内容・特徴	事業における課題
自主製品	食品加工 (焼き菓子作り)	洋菓子(クッキー)の製造 販売会やショップ販売の実施 企画セットやギフトセットの販売 企業等へのカタログ注文販売	・販路の拡大、商品の多様化、販促イベント実施、 増産を目指していく。 ・委託販売先を拡げる。
自主製品	ウェス加工 名刺・年賀状印刷 ポストカード メモ帳	・近隣の鉄工所向けのウェス製作・販売 を行っている ・ノーム・はぎの郷利用者の絵画を使用 した自主製品作り	・利用者の芸術活動の支援 ・アート作品を製品化するための 職員技術向上および権利関係の整理
下請・内職	カーテンフック 組み立て作業 菓子ラッピング作業	・誰でも参加できる軽作業として、位置 付けている。 ・常に材料の供給があるため安定して 同一の作業活動を提供できる	・各作業者に対応した治具の調整 ・品質向上につながる作業環境の改善 ・清潔環境推進をさらに進める
協働プロジェクト	PC再生	・利用者の社会参加・社会貢献の機会 を広げる作業として位置付け ・多くのNPOやボランティアとの協働作 業で実施している	・スタッフ側の技術習得を図っていく。 ・PC周辺機器の再生事業 ・他団体との情報共有体制の確立。
業務委託	清掃業務	・清掃業務マニュアルに沿ってトイレや 浴室・洗面所等の日常清掃、及びトイレ 玄関の定期清掃を行う。	・マニュアル理解の状況や作業手順等のモニタリ ングが必要。 ・感染症の流行等により、業務を行えない期間が あった。

8. 自閉症啓発への取り組み

◎石川県自閉症協会より、平成31年4月2日の「世界自閉症啓発デー」でのイベント及び以後4月8日までの「発達障害啓発週間」に向けた協力依頼を受け、はぎの郷・ノームから職員を派遣しました。

月1回程度の準備会や、関係各機関との会議を行い、イベントは無事終了しました。

1. 石川門ブルーライトアップ(及びブルーライト・ウォーク)

2018年4月2日(月)【国連が定めた世界自閉症啓発デー】

※この時期異常な曇りの降る天候の中でのブルーライトアップとなり、ご参加の皆様には大変過酷なイベントとなっていました。

2. 自閉症・発達障害の方の作品展「わたしの好きなこと」

金沢市庁舎交流ホール・石川県庁 19階展望ロビー

3. 自閉症啓発ポスター掲示、及び、自閉症啓発おすすめ図書 展示コーナー設置

玉川図書館・玉川こども図書館・泉野図書館・金沢海みらい図書館・津幡町立図書館
かほく市中央図書館

◎「強度行動障害支援者養成研修(基礎編2日間)(実践編3日間)」(主催:石川県)に企画委員として職員2名が参加しており、県内の障害福祉事業所の支援者に対し、自閉症者に対する正しい理解と適切な支援が広がってゆくことを目指しています。(継続中)

◎「発達障害理解のための講演会」PFU労働組合との協働事業(新規)

今年度より、つくしの会の啓発活動の一環として、PFU労働組合様からの助成を受け、広く一般の方々に向け自閉症・発達障害理解のための講演会を開催してゆくことといたしました。初回となる今年は、講演会&映画上映会を下記の通り開催し、90名近くの方々のご参加をいただきました。

日時:令和元年12月8日 14:00~ 講演会 講師:日詰 正文様

『これってもしかして発達障がい?とりあえず今できること』

16:15~ 上映会『ぼくはうみがみたくなりました』(パース上映権所有)

会場:津幡町文化センター シグナス 3F 多目的室

以上

発達障害者支援センターパース 令和元年度事業報告

センター長 瀬戸 美津子

1. センターの状況

(1) 職員配置

4～8月 5名（内、常勤4名、非常勤1名）
 9～3月 6名（内、常勤4名、非常勤2名）

(2) 実施場所

金沢市福久東1-56 オフィスオーセド2階建ての2階を賃借 7月より増室 1→2室

(3) 委託料

センター事業 地域支援マネジャー配置分が増額
 家族の集い事業ペアレントトレーニング指導者等養成研修分が増額

2. センター事業の実施状況（表1）

事業内容		実績	
(1) 発達障害児者及びその家族に対する相談支援・発達支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00～17:30 Eメールは24時間受付、緊急時は携帯電話等で時間外にも対応	実支援人数	881人
		延支援件数	1622件
	心理学的判定		14人
	情報共有等（調整会議）		45件
	関係機関職員への助言（機関コンサルテーション）		2770件
(2) 発達障害児者に対する就労支援	来所、訪問、電話、Eメール 原則、日曜・年末年始を除く 9:00～17:30 Eメールは24時間受付	実支援人数	168人
		延支援件数	1880件
	情報共有等（調整会議）		201件
	関係機関職員への助言（機関コンサルテーション）		740件
(3) 地域住民等に対する普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者活動グループの相談対応 ・世界自閉症啓発デーについての広報活動 ・ペアレントメンターについての周知・理解 		29回
(4) 関係施設・関係機関等に対する普及啓発及び研修	センター主催または共催で企画した研修 ・コスモアイル羽咋 テーマ：発達障害の基礎知識 講師：原田克巳（金沢大学） 他	実施回数	42回
		延参加人数	861人
	外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	31回
		延参加人数	154人
	教育関係者との合同研修会	実施回数	8回
		延参加人数	99人
(5) 関係施設・関係機関等の連携	連絡協議会の開催状況 ・世界自閉症啓発デーin 石川企画委員会 他		15回
	障害者総合福祉法第89条の協議会等への参加状況 ・地域障害者自立支援協議会（津幡町・かほく市・白山市） ・市町発達障害者担当課長会議 ・地域生活支援拠点等の整備促進、必要な機能の強化・充実のための都道府県ブロック会議 ・石川県発達障害者支援体制推進会議等および石川県特別支援育体制整備推進事業連絡協議会		7回

	その他の協議会への参加状況 ・発達障害者雇用支援連絡協議会 ・強度行動障害支援者養成研修企画委員会	9 回
--	---	-----

3. 事業の実施内容（表2）

<p>(1) 発達障害児者及びその家族に対する相談支援・発達支援 当事者・家族や関係機関からのニーズに対し、来所・訪問・電話・Eメールなどの方法で相談を実施した。必要に応じて心理検査等のアセスメントや支援計画の作成を実施した。関係機関のコンサルテーションを実施した。 主な関係機関…保育所、放課後児童クラブ、小・中・高校、特別支援学校、大学、児童相談所、障害福祉サービス事業所、相談支援事業所、医療機関、保健所、行政機関 など</p> <p>(2) 発達障害児者に対する就労支援 当事者・家族や関係機関からの就労に関する相談に対し、来所・訪問・電話・Eメールなどの方法で実施した。県青年期社会適応力向上事業として NPO 法人ケーネット知楽市と協働での IT サロン（40 回・参加延べ人数 163 名）や安宅数楽塾と協同でのボードゲーム（能登地区＝4 回・参加延べ人数 14 名、加賀地区＝4 回・参加延べ人数 27 名）の開催に協力した。他、就労関係機関のコンサルテーションを実施した。 主な関係機関…医療機関、相談支援事業所、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、公共職業安定所、企業、司法関係機関、行政機関 など</p> <p>(3) 地域住民等に対する普及啓発 世界自閉症啓発デー in 石川に関する企画・運営を、石川県自閉症協会やその他の関係者ととも実施した。（当日は新型コロナ感染予防のため、ライトアップ以外のイベントは中止）</p> <p>(4) 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修 ペアレントメンター養成講座ベーシックコースの 1 コマを公開講座として、12 月 14 日コスモアイル羽咋にて関係施設及び関係機関職員らを対象に実施した。 ホームページ及びブログの更新を随時実施した。</p> <p>(5) 関係施設及び関係機関等の連携 発達障害者支援に関する様々な会議の企画・運営に協力、参加した。県及び市町の障害者自立支援協議会及び運営会議に参加した。</p>
--

4. 家族の集い事業

(1) ペアレントメンター

能登方面の受講希望者を主体としたペアレントメンター養成講座ベーシックコースを実施した。インストラクターは金沢大学の教授 2 名、その他石川県内で活動している臨床心理士や相談支援専門員らに依頼し、質の高い研修を実施することができた。

石川県自閉症協会げんきの会をはじめとする親の会主催の相談会、パースでの個別相談、養成講座のインストラクター、活動報告会、計 12 回延べ 36 名のペアレントメンター派遣をコーディネートした。

(2) <<新規>>ペアレントトレーニング指導者等養成研修

子どもの発達・発育の偏りによる親の育児不安に関して、身近な地域で専門家の指導を受けられる環境整備の一環。児童発達支援センター、放課後等児童デイサービスの職員 12 名を対象とし、子どもへの関わり方について親・養育者等を指導できる人材育成を目的とした研修を基礎講座 3 回と演習を含む座学 4 回の計 7 回実施した。

5. <<新規>>発達障害者地域支援マネジャー事業

県内各市町の発達障害児者の相談体制作りや困難事例への支援ができるよう、要請に応じて 5 市 5 町に延べ 5 4 回、広域に延べ 1 2 回出向いた。